

【千代田町】
校務 DX 計画

1. 校務 DX を推進する上での現状と課題

令和 6 年度「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」を基にすると、千代田町では校務 DX 化が着実に推進されています。

校内での情報共有については、校務支援システムなどを活用し、全校でデジタル化が進められています。しかし一方で、資料共有の完全デジタル化は一部の学校にとどまっており、今後の改善が必要です。

また、保護者との連絡については、メール配信システムなどを導入しているものの、一部の通知において紙媒体への要望があり、「電子媒体と紙媒体の二重で発出されている」といった課題があります。

FAX の原則廃止は進んでいますが、押印の原則廃止については一部の業務で実施されているものの、出勤簿への押印をはじめとして依然として押印業務が残っている状況です。

2. 校務 DX を推進するための課題解決策、次世代校務 DX 環境の整備

令和 7 年度から、県域での共同調達による学校デジタル基盤（校務支援システムおよび汎用クラウドツール）の導入が検討されています。千代田町では、令和 9 年度からの参画を目指して検討を進める予定です。

県域のデジタル基盤に参画することで、校内や学校と保護者、学校と児童生徒との間の情報共有が円滑になり、デジタル化が一層進むとともに、県全体での活用事例や先進的な取り組みを共有することができます。

この基盤を活用することで、不登校児童生徒への遠隔支援や個別教育相談の実施、さらに外国人児童生徒や特別な支援が必要な児童生徒への個別化された学習コンテンツの提供など、多様なニーズに応じたきめ細やかな支援が可能となります。

千代田町においても、校務支援システムへの名簿情報などの不必要な手入力作業を削減し、教員の業務負担を軽減することで、教員の多忙化解消に寄与するデジタル活用を積極的に進めたいと考えています。

また、校務の効率化やペーパーレス化を阻む要因となっている FAX や押印の見直しを進めるとともに、セキュリティポリシーの改定や要録の電子保管などの課題についても、県域での事例を参考にしながら検討を深めていきます。